

血漿分画製剤の供給のあり方に関する検討会 (平成23年度の開催状況について)

検討会の目的

血漿分画製剤の製造・供給体制のあり方については、これまでもさまざまな議論が行われてきたが、血漿分画製剤が国民の献血により得られた血液を原料とするものであることを踏まえ、国内自給及び供給体制等に係る諸問題について改めて検討を行い、将来にわたり安定供給が可能な体制の構築を図る。(平成22年11月8日 第1回検討会開催)

【検討会開催実績】

- 第5回検討会(平成23年7月20日)
 1. 輸血用を含めた血液製剤全般のコスト構造のあり方について
 2. 血漿分画製剤の輸出について

- 第6回検討会(平成23年9月5日)
 1. 輸血用を含めた血液製剤全般のコスト構造のあり方について
 2. 血漿分画製剤の輸出について

- 第7回検討会(平成23年9月28日)
 1. 国内自給化が困難な製剤の供給のあり方について
 2. 血漿分画製剤のインフォームド・コンセントのあり方について

- 第8回検討会(平成23年10月31日)
 1. 血漿分画製剤及び遺伝子組換え製剤のあり方について
 2. 各製剤の国内自給推進方策
 3. 輸血用を含めた血液製剤全般のコスト構造のあり方について

検討会の今後の進め方

中間報告の「第6 今後さらに検討が必要な課題」に示された諸課題について、議論された。今後、最終報告案について討議の上、来年3月開催予定の薬事・食品衛生審議会薬事分科会血液事業部会への最終的な報告を行う予定。